

達第二百十八號

大東亞戰爭中捕獲セル米國砲艦「ルソン」ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名ス

昭和十七年八月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦唐津(カラツ)

達

四一七

1306

達第二百十九號

兵器經理規程中左ノ通改正ス

昭和十七年八月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一條表中 横須賀海軍軍需部ノ項「第六艦隊ノ司令部、」ヲ「第六艦隊、第八艦隊ノ司令部」ニ改ム

同表中 吳海軍軍需部ノ項「第二艦隊、」ヲ「第二艦隊、第三艦隊、」ニ改ム

(會計法規集四卷一六三頁參照)

達

四一九

1307

達第二百二十號

海軍軍屬禮式中左ノ通改正ス

昭和十七年八月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍諸例
第八條

海軍軍人ニ對シテハ其ノ官等^〇ニ應ジ敬禮ヲ行フヲ禮トス

達

四二一

1308

海軍諸則
五載

達第二百二十一號

海軍囑託者報酬増額取扱規則左ノ通定ム

昭和十七年八月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍囑託者報酬増額取扱規則

第一條 海軍囑託者ノ報酬増額ハ専務ノ囑託者ニ付之ヲ行ヒ他ニ本務ヲ有スル兼務ノ囑託者ニ對シテハ囑託時ノ條件ニ變化ナキ限り之ヲ行ハザルモノトス

第二條 海軍囑託者ノ報酬増額ハ拔擢ヲ以テス

第三條 定期報酬増額ハ毎年四月一日、十月一日ノ二期トス但シ特別ノ場合ニ在リテハ定期以外ニ増額スルコトヲ得

第四條 部内限奏任官待遇以上ノ囑託者ノ報酬増額ハ海軍大臣之ヲ行ヒ部内限判任官待遇囑託者ノ報酬増額ハ所屬長官配付豫算額内ニ於テ之ヲ行フ但シ別表所屬ノ部内限判任官待遇囑託者ニ在リテハ毎年三月一日又ハ九月一日迄ニ海軍大臣ノ認許ヲ受クルヲ要ス

所屬長官前項ノ規定ニ依リ報酬ノ増額ヲ行ヒタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ但シ定期以外

達

四二三

1309

ニ於テ報酬ノ増額ヲ行ヒタルトキハ之ニ理由ヲ附スルヲ要ス

第五條 待遇ヲ付與セザル囑託者ノ報酬増額ハ雇員ノ増給ニ準ジ配付豫算額内ニ於テ所屬長官之ヲ行フ

第六條 部内限判任官待遇以上ノ囑託者ノ報酬増額ハ毎年二月一日、八月一日現在ノ所屬ニ於テ調査シ海軍文官進級俸取扱規則別表第二號ノ様式ニ準ジ報酬増額具申書ヲ調製シ其ノ月ノ十日迄ニ到達スル様所屬長官ニ具申スベシ但シ勤務年數ニハ三月末日、九月末日迄ヲ算入スルモノトス

第七條 所屬長官ハ部内限奏任官待遇以上ノ囑託者ニシテ報酬ノ増額至當ト認ムルモノヲ拔擢シ毎年二月二十日、八月二十日迄ニ海軍大臣ニ進達又ハ具申スベシ

第八條 報酬増額ヲ具申シタル後報酬増額セシムベカラズト認ムル事由ノ生ジタル者アルトキハ拔擢官ハ速ニ之ヲ所屬長官又ハ海軍省人事局長ニ具申又ハ通報スベシ

部内限判任官待遇囑託者ニシテ報酬増額調査期日後報酬増額施行當日以前ニ於テ他ニ轉囑シタル場合ニハ舊所屬長官ハ新所屬長官ニ其ノ具申書ヲ速ニ移牒シ舊所轄長ハ新所轄長ニ其ノ具申書寫ヲ送付スベシ

(別表)

海軍大臣官房、海軍省各局、海軍省內特設部局、軍令部、侍從武官府、水路部、海軍艦政本部及其ノ所管廳、海軍航空本部、海軍施設本部、海軍大學校、海軍兵學校、海軍機關學校、海軍軍醫學校、海軍經理學校、高等軍法會議、東京軍法會議、艦隊

達第二百二十二號

艦營需品貸與品表中左ノ通改正ス

昭和十七年八月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

砲術長主管

區別	品名	數稱	摘	要	貸與スル場合	記	事
追加	乙類	式典用天幕	組	附屬品共	臨時必要ノ時	新規設定	
同	同	式典用幕	枚		同	同	

達第二百二十三號

則登

海軍兵曹長及海軍航空兵曹長實務練習規則中左ノ通改正ス

達

四二五

昭和十七年八月八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

題名中「航空兵曹長」ヲ「飛行兵曹長」ニ改ム

第一條 海軍兵曹長及海軍飛行兵曹長實務練習ノ目的ハ海軍兵學校又ハ海軍練習航空隊ノ選修學生
教程修了者ヲシテ海軍兵學校又ハ海軍練習航空隊ニ於テ修得シタル事項ヲ實地ニ活用スルノ道ニ
習熟セシメ軍艦若ハ航空隊ニ於ケル勤務要領ヲ會得セシムルト共ニ益々軍人精神ノ涵養、品性ノ
陶冶及體力ノ練磨ヲ期シ以テ將來特務士官トシテ兵科將校ト同等ノ配置ニ於テ其ノ職務ヲ遂行ス
ルニ必要ナル基礎ヲ完成セシムルニ在リ

第四條中「航空兵曹長」ヲ「飛行兵曹長」ニ改ム

第五條中「衛兵司令」ノ下ニ「飛行隊附飛行士」ヲ加フ

(諸例則卷三、八三三頁ノ一五参照)

○正誤



本年達第二百號三七二頁八行目「經歷書」ハ「履歷書」ノ、三七三頁二行目「前三項」ハ「前四項」
ノ、三七四頁二行目「海軍徵備船舶船員ニハ」ハ「海軍徵備船舶船員ニハ」ノ孰モ誤

達第二百二十四號

市外電話優先取扱並ニ部外有線及無線電信電話施設ヲ海軍各廳ニ於テ專用セントスル場合ノ手續ヲ左ノ通定ム

昭和十七年八月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

種別	協議先	要求元	協議事項
市外電話 優先取扱	海軍省兵備局長	廳長	<ul style="list-style-type: none"> 一、必要トスル理由 一、要求廳所在地並ニ同廳局番及電話番號 一、相手廳所在地並ニ同廳局番及電話番號 一、必要トスル理由 一、回線數及電話機種別 一、交換臺ニ收容カ否カノ別 一、交換臺ニ收容スルモノニ在リテハ局線ニ接続スル構内電話機數 一、電話機設置場所 一、其ノ他
加入電話	鎮守府又ハ警備府ニ在リテハ參謀長及經理部長 東京ニ在リテハ海軍省經理局長	廳長	<ul style="list-style-type: none"> 一、必要トスル理由 一、回線數及電話機種別 一、交換臺ニ收容カ否カノ別 一、交換臺ニ收容スルモノニ在リテハ局線ニ接続スル構内電話機數 一、電話機設置場所 一、其ノ他

達

四二七

1313

備考 (一) 無線電信電話ノ専用ニ關シテハ専用有線電信電話ニ於ケル手續ヲ準用ス	市外専用有線電信電話	市内専用電話
	同 右	所屬鎮守府又ハ警備府參謀長經由 海軍省兵備局長
	同 右	應 長
	一、必要トスル理由 一、區間及回線數 一、電信、電話ノ別 一、交換臺ニ收容カ否カノ別 一、同 右所在地 一、専用期間 一、共ノ他	一、必要トスル理由 一、區間及回線數 一、交換臺ニ收容カ否カノ別 一、同 右所在地 一、電話機ノ種別及個數 一、専用期間 一、施設場所ガ部外官廳等ノ場合ハ相互協議了解ヲ得置クコト 一、共ノ他

(二) 艦隊所屬ノ部隊又ハ應長ハ所屬長官經由(狀況ニ依リ所管鎮守府經由)兵備局長宛協議スルモノトス

(三) 設置場所變更又ハ廢止ノ場合モ前各號ニ準ジ手續ヲ行フモノトス

(四) 電話機ノ種別ハ左ノ通トス

甲 號卓上機

乙 號卓上機

(ハ) 普通機(壁掛機)

達第二百二十五號

海軍有線電話(部外有線電話専用中ノモノヲ含ム)使用ノ際ニ於ケル緩急區分左ノ通定ム

昭和十七年八月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

緩急區分	内 容	取 扱 法
作戰緊急	作戰上緊急ヲ要スル重要通話	一、作戰緊急以外ノ他ノ通話ニ先チ接続ス 二、作戰緊急以外ノ通話中ノ場合ハ交換手ハ通話者ニ作戰緊急通話アル旨通知ノ上之ヲ中斷シ接続ス

達

四一九

1315

達

緊急	緊急	特ニ緊急ヲ要スル通話
至急	至急ヲ要スル通話	
普通	前各號以外ノ通話	
		一、至急及普通通話ニ先チ接続ス 二、至急又ハ普通通話通話中ニシテ二十分以上ニ亘ル場合ハ交換手ハ通話者ニ緊急通話アル旨通知ノ上之ヲ中斷シ接続ス
	普通通話ニ先チ接続ス	

四三〇

1316

海軍
則登載例

達第二百二十六號

昭和七年達第百三十四號中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

表ヲ左ノ如ク改ム

應 名 等	處 理 擔 任
海軍軍樂隊東京分遣隊	東京海軍通信隊職員タル軍醫科士官
水路部	海軍經理學校職員タル軍醫科士官
海軍艦政本部製圖工場	海軍技術研究所部員タル軍醫科士官
海軍航空本部製圖工場	

参照 昭和七年達第百三十四號ハ醫務衛生ニ關スル事項ノ處理擔任ノ件ナリ（諸例則卷三、九一七頁）

○正誤

達

本年達第二百十五號第六條第一項中「海軍文官待遇者」ノ下ニ「（ ）ヲ脱シ、同二百二十號中「官
等級等」ハ「官等級」ノ誤

達

四三一

1317

達第二百二十七號

國有財産法實施手續中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十七日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表中第二號及第三號國有財産ノ種別欄中「工作物」ノ下ニ「(有線通信裝置ヲ除ク)」ヲ加フ
同表中第十五號及第十六號ヲ左ノ如ク改ム

十五	工作物(有線通信裝置ニ限ル)	燃料廠ニ屬スルモノ	燃料廠長	艦政本部長
	機械器具			軍需局長
十六	工作物(有線通信裝置ニ限ル)	火藥廠ニ屬スルモノ	火藥廠長	艦政本部長
	機械器具			

(會計法規類集四卷五四五頁參照)

達

四三三

1318

海軍諸則
卷之八

達第二百二十八號

左ノ事項ニ對スル海軍規格ヲ別紙ノ通定ム

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所冀ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年八月十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

- 一 管用ねぢ
- 二 管接手ねぢ
- 三 瓦斯管ノ寸法
- 四 ウイットウオースねぢ第一號(丸山)
- 五 メートルねぢ第一號(外徑二—八〇耗)
- 六 六角ナット(ウイットウオースねぢ)
- 七 六角ナット(メートルねぢ)
- 八 針金ノ徑薄板ノ厚及其ノ稱呼
- 九 寸法標準數

達

四三五

1319

- 十 傳導用調車
- 十一 陸上用小型三相誘導電動機
- 十二 電機用刷子
- 十三 モールステーバシヤンク螺錐
- 十四 ストレートシヤンク螺錐
- 十五 モールステーバシヤンク及ソケット
- 十六 電球用ねぢ型口金及ソケット
- 十七 小ねぢ
- 十八 二九度梯形ねぢ (ウイットウオースねぢ系用)
- 十九 三〇度梯形ねぢ (メートルねぢ系用)
- 二十 六角ボルト (メートルねぢ) 磨及仕上
- 二十一 六角ボルト (メートルねぢ) 黒皮及半仕上
- 二十二 六角ボルト (ウイットウオースねぢ) 磨及仕上
- 二十三 六角ボルト (ウイットウオースねぢ) 黒皮及半仕上

- 二十四 キー
- 二十五 一般用織目無鋼管ノ寸法（内徑基本）（外徑基本）
- 二十六 割ピン
- 二十七 メートル細目ねぢ
- 二十八 ウイツトウオース細目ねぢ
- 二十九 黒皮ボルト用丸鋼
- 三十 スパナ
- 三十一 平栓（船用）
- 三十二 計壓器
- 三十三 限界ゲージ方式
- 三十四 麻索用シンブル
- 三十五 限界ゲージ
- 三十六 リーマー
- 三十七 木ねぢ

達

四三七

1321

達

四三八

三十八 座金

達第二百二十九號

海軍臨時増給支給規則中左ノ通改正ス

昭和十七年八月十九日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表中「昭和十七年六月乃至七月分」ヲ「昭和十七年六月分以降」ニ改ム

(海軍會計法規類集二卷五七九頁及本年達第一七八號參照)

1322

海軍諸例
則登載

達第二百三十號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第五條表中看護婦ノ欄ノ次ニ

見習看護婦

※病院※燃料廠※工廠※火藥廠※工作部
※技術研究所※航空技術廠※航空廠

ヲ加フ

第五條第二項中「筆生、」ノ下ニ「醫務助手、」ヲ加フ

附則

本達ハ昭和十七年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(諸例則卷三、七七九頁參照)

達第二百三十一號

雇員備人給與規則中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

達

四三九

1323

達

四四〇

第二表傭人給料最上限表中日給一圓ノ欄「給仕」ノ前ニ「見習看護婦」ヲ加フ

附則

本達ハ昭和十七年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

(會計法規類集卷二、四〇七頁參照)

達第二百三十二號

佐世保海軍工廠ニ於テ建造中ノ軍艦一隻ニ左ノ通命名セラル

昭和十七年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦 矢矧(ヤハギ)

達第二百三十三號

昭和十六年度及昭和十七年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦一隻、潜水艦五隻、海防艦四隻、掃海艇二隻及特務艦一隻ニ左ノ通命名ス

昭和十七年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

三菱重工業株式会社長崎造船所ニ於テ建造

驅逐艦 若月 (ワカツキ)

吳海軍工廠ニ於テ建造

伊號第四十潜水艦

伊號第四十一潜水艦

伊號第四十二潜水艦

伊號第五十二潜水艦

川崎重工業株式会社ニ於テ建造

呂號第百九潜水艦

株式會社大阪鐵工所ニ於テ建造

海防艦 擇捉 (エトロフ)

特務艦 白埼 (シラサキ)

三井造船株式會社玉工場ニ於テ建造

達

四四一

1325

海防艦 松 輪 (マツワ)

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

海防艦 佐 渡 (サド)

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 隠 岐 (オキ)

株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造

第二十三號掃海艇

三菱重工榮株式會社横濱船渠ニ於テ建造

第二十六號掃海艇

達第二百三十四號

吳海軍工廠ニ於テ艤裝中ノ汽船新田丸ヲ左ノ通命名セラル

昭和十七年八月二十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍 艦 沖 鷹 (チユウヨウ)

達第二百三十五號

海軍工員臨時給與規則中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三條ノ二 第一條ニ該當スル工員ニ支給スル旅費ハ鐵道賃、軌道賃、船賃、車馬賃、手荷物運送料、食料及宿泊料ノ實費トス但シ食料及宿泊料ハ本邦（南島島、新南群島及南洋群島ヲ除ク）内ノ旅行ニ在リテハ海軍内國旅費規則第五表ノ宿泊料及食卓料ノ定額、戰地外各地ト戰地間又ハ戰地相互間ノ旅行ニ在リテハ該地域内ノ旅行ニ付定メタル旅費額ヲ超ユルコトヲ得ズ
前項但書後段ノ場合ニ於テ艦船便乗中ハ工長ハ准士官、工手ハ二、三等下士官、其ノ他ハ一等兵ニ準シ各其ノ旅費日額以内ニ於テ實費ヲ支給ス

附則

本達ハ昭和十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

達

四四三

1327

達第二百三十六號

海軍造船機造兵主要材料試験検査規則第三編第十四章高力黄銅棒中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二條高力黄銅棒ハ之ヲ次ノ三種ニ區分ス

第一種

第二種

第三種

第八條抗張試験中表ヲ次ノ如ク改ム

種別	徑 mm	抗張力 K_s / mm^2	伸 %
第一種		45 以上	28 以上
第二種		53 以上	20 以上
第三種	100 未満 100 以上	58 以上 55 以上	15 以上 15 以上

達

四四五

1328

第九條 届出試験中「第三種及第四種」ヲ「第一種」ニ改ム

達第二百三十七號

海軍兵進級規則中左ノ通改正ス

海軍諸船和十七年八月二十六日

則登載

海軍大臣 嶋田繁太郎

「四等兵」ヲ「二等兵」ニ、「三等兵」ヲ「一等兵」ニ、「二等兵」ヲ「上等兵」ニ、「一等兵」ヲ「兵長」ニ、「三等飛行兵」ヲ「一等飛行兵」ニ、「二等飛行兵」ヲ「上等飛行兵」ニ、「二等飛行兵」ヲ「飛行兵長」ニ改ム

第三條 二等兵（補充兵及第二國民兵ヲ除ク）ハ所定ノ新兵教程ヲ終リタルトキ一等兵ニ進級セシム

補充兵タル二等兵ハ教育召集解除ノ際、第二國民兵タル二等兵ハ召集期間五月ヲ經過シタルトキ

夫々一等兵ニ進級セシム

第四條ノ三第一項中「資格ヲ有スル兵」ヲ「資格ヲ有スル現役兵」ニ改ム

第二十二條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

召集中ノ二等兵ニシテ召集期間三月ヲ經過シタルモノハ召集ヲ解ク際特ニ之ヲ進級セシムルコトヲ得

第二十三條第一項中「現役免除、」ノ下ニ「兵役免除、」ヲ加フ

附 則

本達ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照 諸例則卷二、一八七頁)

達第二百三十八號

海軍下士官兵身上取扱規則中左ノ通改正ス

海軍諸例
則登載

和十七年八月二十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二條中「小學校」ヲ「國民學校」ニ、「佐徴看第何號」ヲ「佐徴衛第何號」ニ改メ「徴兵ハ横徴整第何號」ノ次ニ左ノ如ク加フ

達

四四七

1330

志願兵ハ横志技第何號

第一補充兵ハ横一補水第何號

第二補充兵ハ横二補水第何號(各鎮守府之ニ做フ)

第二國民兵ハ横國水第何號

第九條ノ四第一項中「要港部病院、」ヲ削ル

附則

本達ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本達施行前入籍ノ看護科下士官兵ノ入籍番號ハ従前ノ例ニ依ル

(參照 附則卷二、二九七頁)

達第二百三十九號

海軍諸則
下士官兵履歴表中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1331

第一國民兵役	編入
滿期	

ノ項ヲ

第一國民兵役	編入	補充兵役滿期
滿期		

ノ項ニ改メ注意第二號中「現役」ノ下ニ「又ハ召集」

ヲ、同第三號中「現役ヲ離ルルトキ」ノ下ニ「又ハ召集ヲ解カルルトキ」ヲ加フ

(參照 諸例則卷二、三〇一頁)

達第二百四十號

海軍下士官兵履歴表並考調査表取扱及記註心得申左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第六號 但書ヲ加フ

但シ補充兵ニ在リテハ履歴表ノミトス。

第六號中「現役編入、」ノ下ニ「補充兵役編入、」ヲ、「徵募徵集」ノ下ニ「召集」ヲ加フ

達

四四九

1332

(参照 諸例則卷二、三〇五頁)

達第二百四十一號

海軍人事部處務規程中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍
則發裁

七條中「若ハ第一國民兵役」ヲ、「補充兵役若ハ國民兵役」ニ改メ同條ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ徵兵出身ノ豫備兵、補充兵又ハ第二國民兵ニシテ軍事上必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條第一項第八號、同第九號、第十二條第一號及第十五條中「豫備役、第一國民兵役」ヲ「豫備役、補充兵役、國民兵役」ニ改ム

第十三條中第十表ノ部ヲ左ノ如ク改ム

第十表 豫備役下士官兵調
常備兵役出身第一國民兵役下士官兵調
七月一日、四月一日

第十表ノ二 補充兵調
同

第十表ノ三 補充兵役出身第一國民兵並ニ第二國民兵調
同

達

<table border="1"> <tr><td>欄</td></tr> <tr><td>模 型</td></tr> <tr><td>舟 艇</td></tr> </table>	欄	模 型	舟 艇	<table border="1"> <tr><td rowspan="6">機 關</td><td rowspan="3">高 等 科</td><td>掌 主 機 械</td></tr> <tr><td>掌 補 助 機 械</td></tr> <tr><td>掌 備</td></tr> <tr><td rowspan="3">普 通 科</td><td>計</td></tr> <tr><td>掌 主 機 械</td></tr> <tr><td>掌 補 助 機 械</td></tr> <tr><td>掌 備</td></tr> <tr><td>計</td></tr> <tr><td rowspan="2">内 火 術</td><td>高 等 科</td></tr> <tr><td>普 通 科</td></tr> <tr><td>計</td></tr> </table>	機 關	高 等 科	掌 主 機 械	掌 補 助 機 械	掌 備	普 通 科	計	掌 主 機 械	掌 補 助 機 械	掌 備	計	内 火 術	高 等 科	普 通 科	計	別表様式第二表及第七表ノ丁中
欄																				
模 型																				
舟 艇																				
機 關	高 等 科	掌 主 機 械																		
		掌 補 助 機 械																		
		掌 備																		
	普 通 科	計																		
		掌 主 機 械																		
		掌 補 助 機 械																		
掌 備																				
計																				
内 火 術	高 等 科																			
	普 通 科																			
計																				
<table border="1"> <tr><td>特修科軍樂術</td></tr> </table>	特修科軍樂術	ノ欄ニ、同表工作術高等科及普通科ノ部中	<table border="1"> <tr><td rowspan="6">機 關</td><td rowspan="3">高 等 科</td><td>掌 機</td></tr> <tr><td>掌 内 火 機 械</td></tr> <tr><td>掌 備</td></tr> <tr><td rowspan="3">普 通 科</td><td>計</td></tr> <tr><td>掌 機</td></tr> <tr><td>掌 内 火 機 械</td></tr> <tr><td>掌 備</td></tr> <tr><td>計</td></tr> </table>	機 關	高 等 科	掌 機	掌 内 火 機 械	掌 備	普 通 科	計	掌 機	掌 内 火 機 械	掌 備	計						
特修科軍樂術																				
機 關	高 等 科	掌 機																		
		掌 内 火 機 械																		
		掌 備																		
	普 通 科	計																		
		掌 機																		
		掌 内 火 機 械																		
掌 備																				
計																				
<table border="1"> <tr><td rowspan="4">軍 樂 術</td><td>特 修 科</td></tr> <tr><td>高 等 科</td></tr> <tr><td>普 通 科</td></tr> <tr><td>計</td></tr> </table>	軍 樂 術	特 修 科	高 等 科	普 通 科	計	<table border="1"> <tr><td>木 具</td></tr> </table>	木 具	ノ欄ヲ												
軍 樂 術		特 修 科																		
		高 等 科																		
		普 通 科																		
	計																			
木 具																				
ノ欄ニ、同表潜航術ノ部中「内火																				

四五

1334

機械」ヲ「内火」ニ改ム

同第七表ノ乙中

ノ欄ニ、同表工作術高等科及普通科ノ部中

機 關 術	高 等 科	掌 機	下士官 兵
		掌 内火 機 械	下士官 兵
		掌 罐	下士官 兵
	普 通 科	掌 機	下士官 兵
		掌 内火 機 械	下士官 兵
		掌 罐	下士官 兵

木 具	下士官 兵
-----	----------

ノ欄ヲ

模 型	下士官 兵
舟 艇	下士官 兵

ノ欄ニ、同表中

機 關 術	高 等 科	掌 主 機 械	下士官 兵
		掌 補 機 械	下士官 兵
		掌 罐	下士官 兵
	普 通 科	掌 主 機 械	下士官 兵
		掌 補 機 械	下士官 兵
		掌 罐	下士官 兵
内 火 術	高 等 科	下士官 兵	
	普 通 科	下士官 兵	

特修科 軍樂術	下士官 兵
------------	----------

達

機 關 術	掌機	高等科 普通科	同第十表中 「豫備役(第一國民兵役)下士官兵調」ヲ「豫備役(常備兵役)出身第一國民兵役」ニ改ム	現 役 豫 備 役 常備第一國民兵役 出身 第一國民兵役	出 身 第一國民兵役	ノ 項 ニ 改 ム
	掌内火	高等科 普通科				
	掌罐	高等科 普通科				
ノ 欄 ヲ						
機 關 術	掌主機	高等科 普通科	同第十表中 「豫備役(第一國民兵役)下士官兵調」ヲ「豫備役(常備兵役)出身第一國民兵役」ニ改ム	現 役 豫 備 役 常備第一國民兵役 出身 第一國民兵役	出 身 第一國民兵役	ノ 項 ニ 改 ム
	掌補機	高等科 普通科				
	掌罐	高等科 普通科				
ノ 欄 ヲ						
内火術	高等科 普通科					

同第九表現員ノ部中
出
身
豫
備
役
ノ
項
ヲ

ノ欄ニ、同表潜航術ノ部中「内火機械」ヲ「内火」ニ改ム

軍 樂 術	特修科	下士官 兵
	高等科	下士官 兵
	普通科	下士官 兵

ノ欄ニ、同表工作術高等科及普通

四五三

1336

達

四五四

科ノ部中

木 具

ノ欄ヲ

模 型
舟 艇

ノ欄ニ、同表軍樂科ノ部中

特修科軍樂術

ノ欄ヲ

軍樂術	特修科
	高等科
	普通科

ノ欄ニ

改ム

同第十表ノ二及第十表ノ三ヲ別表ノ如ク定ム

(別表二葉添)

(参照諸例則卷一、一六一頁)

達第二百四十二號

海兵團練習部規則申左ノ通改正ス

海軍諸則
登載

昭和十七年八月二十六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第五條中「普通科看護術練習生タルベキ者ハ三月以内」ノ下ニ「練習兵(年齢十四年以上十六年

1337

未滿ノ者ヨリ採用シタル水兵、整備兵、機關兵、工作兵、軍樂兵、看護兵及主計兵ニシテ特別教育ヲ施スベキモノハ一年六月以内」ヲ加フ

達

四五五

1338

美濃)

(昭和十七年達第二百四十一號別表)

昭和 年 月 日

補充兵役出身第一國民兵並ニ第二國民兵調

海軍人事部長

種別	月一現員	増				減				差引本日 月一現員	現員内譯				
		國民兵役編入	他所管ヨリ轉入		計	服滿	減耗	他所管へ轉出			計	應召員	行衛不明病弱等	召集發給者	召集可能員
兵科	一 國														
	二 國														
整備科	一 國														
	二 國														
機關科	一 國														
	二 國														
工作科	一 國														
	二 國														
看護科	一 國														
	二 國														
主計科	一 國														
	二 國														
計	一 國														
	二 國														

一、月一日現員ノ欄ニハ前回調製時期ニ於ケル現員ヲ掲記スベシ

1339

第十表ノ二 (用紙美濃)

(昭和十七年達第二百四十一號別表)

昭和 年 月 日

補充兵調

海軍人事部長

種別	月日 一現	増				減					差引本 月一日 現員	増員内譯			
		補充兵 役編入	他所管 ヨリ轉 入		計	一國 編入	二國 編入	減耗	他所管 へ轉出			計	應召員	行當不 明病弱 等	召集 猶豫者
兵科	一補														
	二補														
整備科	一補														
	二補														
機關科	一補														
	二補														
工作科	一補														
	二補														
看護科	一補														
	二補														
主計科	一補														
	二補														
計	一補														
	二補														

1340

一、月一日現員ノ欄ニハ前ノ調製時期ニ於ケル現員ヲ掲記スベシ

達第二百四十三號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十七年八月二十八日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第二百二十二條 給與令第八十條（第七號及第八號ヲ除ク）及第八十一條ノ糧食ハ第二十表、同令第

八十條第七號及第八號ノ糧食ハ第二十表ノ四ニ依リ之ヲ給與ス但シ潜水艦乗員ニハ航海中（艦隊
ノ潜水艦ニ在リテハ碇泊中ヲ含ム）ニハ第二十表ノ二ニ依ル糧食ヲ、航空機搭乗者ニハ第二十表

ニ依ルノ外第二十表ノ三ノ糧食ヲ給與スルコトヲ得

第二百二十七條第二號中「第二十表」ノ下ニ「若ハ第二十表ノ四」ヲ加フ

第二十表中刑務所食ノ部ヲ削ル

同表備考中

二、削除

「刑務所食」及第十七號乃至第二十二號ヲ削ル

雜

達

四五七

1341

第二十三號ヲ左ノ如ク改ム

十七、本表ノ給與量額ハ最上限ノ給額ヲ示ス但シ基本食及増加食中日額品ノ量額ハ適宜増加スルコトヲ得ルモ旬計ニ於テハ日額ヲ標準トシ計算シタル量額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十四號ヲ第十八號トシ以下順次繰上ダ

第二十表ノ二備考中第二號ヲ左ノ如ク改ム

二、本表ノ給與量額ハ最上限ノ給額ヲ示ス但シ基本食中日額品ノ量額ハ適宜増加スルコトヲ得ルモ旬計ニ於テハ日額ヲ標準トシ計算シタル量額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十表ノ三ノ次ニ第二十表ノ四ヲ別表ノ如ク加フ

附 則

本達ハ昭和十七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年官房第三八四三號中第二項ハ之ヲ削ル

(別表一葉添)

(参照) 昭和十六年官房第三八四三號 一六、七、一七海軍公報

第二十表ノ四 (第百二十二條ニ依リ給與令第八十條第七) (號及第八號該當者ニ給スル糧食ノ量額)

(昭和十七年達第二四三號別表)

考 備	品料飲	品用理調及味調	品 食 副		品 食 主		別 類		記 事
			舊 新	生 骨 骨 漬 付 付 物 物 生 生 野 菜 魚 獸 肉 肉	精 精	麥 米	種 種	別 別	
<p>一、本表中甲ハ軍人、乙ハ其ノ他ノ者ニ對スル最上限ノ給與量額ヲ示ス</p> <p>二、定役(海軍監獄令第二十四條ニ依リ就役ヲ免ゼラレタル者ヲ含ム)ニ服スル者ニハ定役増加食ヲ増給スルコトヲ得</p> <p>三、刑務所ニ於テ規定ノ糧食ヲ得ル暇ナキトキ又ハ海軍給與令施行細則第百二十八條ニ依ル適宜ノ糧食ヲモ給スルコトヲ得ザルトキハ一食ニ付乾パン二〇〇瓦以内ヲ給ス</p> <p>四、囚人賞遇ノ爲増給セラレ又ハ懲罰ノ爲減食ニ處セラレタルトキノ量額ハ海軍監獄令施行細則ニ依ル</p>	茶	豆 醬 植 味 鹽 砂 油 油 噌 糖	五〇〇 二〇〇 九〇	二四〇 二四〇瓦	日 常	日 常	日 常	<p>一、一月一日、二日、三日ノ三日間ハ一日ニ付餅五〇瓦ヲ得</p> <p>二、増給スルコトヲ得ニ精麥ハ同量ノ雜穀ニ換給スルコトヲ得</p> <p>骨付生獸肉及骨付生魚肉ハ隔日交互ニ之ヲ給ス</p> <p>醬油ハ必要ニ依リ同量ノ酢ニ換給スルコトヲ得</p>	
	三	〇・〇一 〇・二 〇・〇〇 一六〇 一六〇 八〇	又ハ一六〇瓦 一・一〇〇	日額八〇瓦 八〇	日額八〇瓦 八〇	定 役 增加食	定 役 增加食		
	三	〇・〇一 〇・二 〇・〇〇 一六〇 一六〇 八〇	又ハ一六〇瓦 一・一〇〇	日額八〇瓦 八〇	日額八〇瓦 八〇	定 役 增加食	定 役 增加食		
	三	〇・〇一 〇・二 〇・〇〇 一六〇 一六〇 八〇	又ハ一六〇瓦 一・一〇〇	日額八〇瓦 八〇	日額八〇瓦 八〇	定 役 增加食	定 役 增加食		
	三	〇・〇一 〇・二 〇・〇〇 一六〇 一六〇 八〇	又ハ一六〇瓦 一・一〇〇	日額八〇瓦 八〇	日額八〇瓦 八〇	定 役 增加食	定 役 增加食		
	三	〇・〇一 〇・二 〇・〇〇 一六〇 一六〇 八〇	又ハ一六〇瓦 一・一〇〇	日額八〇瓦 八〇	日額八〇瓦 八〇	定 役 增加食	定 役 增加食		

達第二百四十四號

特設航空母艦春日丸及八幡丸ヲ帝國艦艇籍ニ編入シ左ノ通命名セラル

昭和十七年八月三十一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦 大 鷹 (タイヨウ)

(特設航空母艦 春日丸)

軍艦 雲 鷹 (ウンヨウ)

(特設航空母艦 八幡丸)

達第二百四十五號

燃料經理規程中左ノ通改正ス

昭和十七年八月三十一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第一内火重油ノ欄中二號重油ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

新二號重油 新二重 (シン) L₂ 重油機械用※

(會計法規類集四卷二五三頁參照)

達

四五九

1344

達

○正誤

解

本年達第二百二十三號第五條中「衛兵司令」ハ「衛兵副司令、」ノ、「飛行隊附飛行士」ハ「飛行隊附、飛行士」ノ孰モ誤

四六〇

1345